

ギターCD レター from yakateru(第 38 号)

レター 35 号で、「のだめカンタービレ」は、必見！！と書いたところ、澤江さんから、TV 放送版 1-10 話 + 映画版を一気に見て、寝不足になったと、メールがありました。すべてに徹底的にやられる澤江さんのパワーに敬服します。余計なこと書いて、すみませんでした！さて、今度は、何を必見と書こうかな。ふふふ

このレターの影響か、ギター以外の CD を最近聴いていない！！

ブラームスはお好き？

澤江さんではないが、昨日、また夜遅く「のだめカンタービレ」を奥さんの要望で見ている、久しぶりにブラームスのシンフォニー NO 1 をちょこっと聴いた。ベートベンの第 9 交響曲に続く、第 10 交響曲ともいわれるこのシンフォニーは、本当にかっこいい！NO 4 の最終章も格好良いが、この純粋に、第九を懂れて作った曲というのに惹かれる。その影響で、さっきまで、ブラームスのピアノコンチェルト NO 4 をバンスタイン指揮、ギレリスのピアノで聴いた。いいですねえ、…ブラームスを聴きながら、ウイスキーの水割りをちびちび飲む。この曲は、4 楽章全部しっかり聴くと実に 1 時間かかる。

聴きながら、ふと思った。今までの 60 年間で、この曲は何回聴いたのだろうか。旋律の一つ一つにきちんと覚えがあり、しっかり楽しめるが、この前まともに聴いたのは 10 年以上前じゃないのだろうか。本なんて、読む片っ端から忘れてしまい、下手したら同じ本をまた買ってきて、初めて読むように読む。本ほどではないが、映画も、2 度見、3 度見しても結構こんなシーンがあったっけなんて、新鮮な感じで見ること度々である。しかし、レコード、CD で音楽を聴くと、うる覚えなんていうものがなく、知っているか、知らないかのどちらかだ。まあ、それだけ、音楽を聴くときは真剣なのだ！！というの怪しい。うたた寝しながら聴いているものもあるが、そんな聴き方をしても結構しっかり記憶に

残っている。おそらく、音楽の持つ時間性の仕業だと思う。読書にしろ、映画鑑賞にしろ、時間性とは切っても切れないが、音楽ほど、密な音楽性はない（と思う）。本も映画も、途中でポーズをかけて中断することはざらだし、TV 放映の映画は、頻繁に CM が入る。深夜の映画 TV なんか、CM の方が放送時間が長いんじゃないかと思うぐらいだ。しかし、ブラームスのシンフォニーをやっている途中で CM 入れて、またその続きを再開、なんてことはありえない。それだけ、時間的にひとつの楽章は結びついておもうし、1 楽章と 2 楽章の間に CM というのでさえ、ありえないかとも思う（まあ、民放でのシンフォニー全曲放送というのがある）。

音楽を聴いているときは、その瞬間、瞬間の連続体であり、途切れることがない音のつながりで構成されているので、頭の出だしを聴けば、その流れで記憶されるということではないのだろうか。だから、数回しか聴いていないブラームスのピアノコンチェルト NO 4 も、しっかりと記憶されている。

さて、ここまでギター音楽に関係の薄い話できたので、ついでに、最も好きな曲、ではなく死ぬ間際に聴きたい 1 曲を紹介する。それは、以前からずっとフォーレの「レクイエム」である。これを聴いていると、天国にいる気分になってしまうので、どうせなら、その気分でスーッと行ければ最高！とおもっている。最近、タレガの「ラ



グリマ」でもいいじゃないかと思うが、短すぎて、その瞬間が来る前に曲が終わってしまう可能性がある。やはりフォーレだろう。

話は変わるが、村上春樹の小説「1Q84」で、最初の 1 ページに確か、主人公の青豆ちゃんが、ヤナーチェクの「シンフォニエッタ」をタクシーの中で聴くシーンがある。この世界的名作を読んでみようと思ったのは、文庫本になって立ち読みしたとき、開いたページにヤナーチェクが登場したからだ。ちなみに、人気の本は避けて通る私であるが、この「1Q84」は、確かに面白かった。必読だ！！？

小澤征爾指揮のボストン交響楽団のこの曲は、特に、金管がキラキラしていて素晴らしい！！

さて、今日のお勧め CD は、ここまでギター無視で書きちゃったので、ギター曲でない CD とする。まあ、1 回ぐらいは、ネタ切れということで許してください。その 1 枚は、当然、天国の音楽、フォーレのレクイエム。ジュリーニ指揮のフィルハーモニアの演奏である。最初に、この演奏を聴いてしまったので、この演奏が私の中に刷り込まれている。そのため、このジュリーニでなければ私にとって天国の音楽とならないのである。刷り込みって、怖いのだ！（続）



ガブリエル・フォーレ
GABRIEL FURÉ (1845-1910)

レクイエム

Requiem

ソプラノ、バリトン、合唱、オーケストラ
オルガンのための 作品48

for soprano, baritone, chorus, orchestra
and organ, op. 48

- [1] 1. 入聖門とキリエ(合唱) [7:48]
INTROITUS ET KYRIE
主よ、永遠の休息をわれに与え給え
Miserere nobiscum, dona eis
主よ、憐れみ給え
Kyrie eleison
- [2] 2. 奉獻曲(ソプラノ、合唱) [9:41]
OFFERTORIUM
栄光の王、主よを礼賛せよ
O Domine, Rex Caeli
Subito
- [3] 3. 聖なるあな(合唱) [3:35]
SANCTUS
聖なるあな、聖なるあな、聖なるあな、
万軍の神なる
Sanctus, Sanctus, Sanctus, Dominus, Deus
Sabaoth
- [4] 4. ああ、イエズス(ソプラノ) [4:01]
PIE JESU
イエズス、憐れみたまへ
Pie Jesu, Domine

[5] 5. 神の小羊(合唱) [7:03]
AGNUS DEI
神の小羊、神に平安を祈り給え
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi

[6] 6. われを許し給え(ソプラノ、合唱) [5:46]
LIBERA ME
主よ、私を永遠の休息に解放し給え
Libera me, Domine, de morte aeterna

[7] 7. 楽園にて(合唱) [3:35]
IN PARADISUM
天に上り、あなを天に連れ給え
In paradysum deducere optat

モーリス・ラヴェル
MORICE RAVEL (1875-1927)

組曲「マ・メール・ロフ」

Ma Mère l'Oye, Suite

- [8] 8. 眠りの森の美女のワルツ [1:52]
Pasade de la Belle au Bois Dormant
Lent
- [9] 9. おやゆび小節 [3:42]
Petit Poucet. Très modéré
- [10] 10. ハゴダの女帝のワルツ [3:57]
L'Arlequin. Impétueux des Pagodes
Mouvement de marche
- [11] 11. 美女と野獣の対話 [4:45]
Les Entretiens de la Belle et la Bête
Mouvement de valse modéré
- [12] 12. 妖精の舞 [3:44]
Le Jardin Féerique. Lent et gracieux

キャスリーン・バートル(ソプラノ) アンドレアス・シュミット(バリトン)
Kathleen Battle, Soprano Andreas Schmitt, Baritone

フィルハーモニア管弦楽団、合唱団

Philharmonia Chorus & Orchestra

(合唱指揮: ナルスト・ハイマン) エンツィ・ファン・ジッパ
(Chorus Master: Norst Heiman) Entzi Fank Gipp

ロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団(ラヴェル)

Los Angeles Philharmonic Orchestra

指揮: カルロ・マリア・ジュリーニ

Conductor: Carlo Maria Giulini

録音: 1979年11月 ロサンゼルス(ラヴェル)、1986年3月 ロンドン(フォーレ、アンタル録音)